

R-GIRO 研究プログラム 進捗・研究成果報告書（第8回）

（2015年3月1日～2015年8月31日分）

（1）基本情報

テーマ	電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究（IRIS）
採択時期	2011年度
リーダー	松原洋子（大学院先端総合学術研究科教授）
メンバー （所属）	石川准（静岡県立大学教授）、菊池尚人（慶応義塾大学特任准教授）、松原聡（東洋大学教授）、立岩真也（先端総合学術研究科教授）、湯浅俊彦（文学部教授）、常世田良（文学部教授）、山口翔（名古屋学院大学講師）、植村要（R-GIRO 専門研究員）、伊藤京平（RA）
研究実施場所	アカデミア立命21 314号室

（2）進捗・成果の状況

① 運営委員会以外には開示しないことを希望する

サブテーマ名	電子書籍技術／市場と ICT 政策
担当研究者	石川・菊池・松原（聡）・松原（洋）・湯浅・山口・植村他
内容	<p>① 図書館におけるアクセシビリティ保障に向けての取り組み</p> <p>三田市立図書館における大日本印刷、図書館流通センターと共同で、視覚障害等を有する利用者および視覚障害を有する図書館員が組織する「なごや会」メンバーを対象とした電子書籍による音声読み上げ実証実験を実施した。内部報告書をまとめ、アクセシブルな電子図書館システムの研究開発方針を明確にした（湯浅・植村・松原（洋））。</p> <p>② 公共図書館における電子書籍導入に関する調査研究</p> <p>日本電子図書館サービス、メディアドゥと提携した公共図書館向け電子書籍サービスを提供する OverDrive、図書館流通センターの読書アクセシビリティに関する取り組みについての調査研究を実施した（湯浅）。</p> <p>③ アクセシビリティ政策に関する専門知識の提供</p> <p>電子出版制作・流通協議会「電子書籍のアクセシビリティを推進するためのコンテンツ制作及び電子書籍リーダーの在り方等に関する調査研究」検討委員会の委員長・副委員長として、総務省「音声読み上げによるアクセシビリティに対応した電子書籍制作ガイドライン」の策定に関する検討を行った（松原（聡）・石川）。自由民主党知的財産戦略調査会コンテンツ小委員会においてデジタル時代の著作権のあり方に関するヒアリングに協力した（菊池）。</p> <p>④ 著作権とアクセシビリティをめぐる制度の検討</p> <p>コピー・コントロールの互換性とアクセシビリティの確保に関する標準化（制度及び技術）に関する調査研究を実施した。本年度後半の成果公表を予定（菊池）。</p>

② 運営委員会以外には開示しないことを希望する

サブテーマ名	高等教育機関における電子書籍利用
担当研究者	常世田・湯浅・松原（洋）・植村他

内 容	<p>① 大学図書館アクセシビリティに関する報告と情報共有</p> <p>全国高等教育障害学生支援協議会第1回大会において、大学図書館における図書資料のテキストデータ提供の課題について、立命館大学図書館のケースを例にポスター報告を行った(松原(洋)・植村)。他大学の障害学生支援担当者や図書館関係者からの反響が大きく、本プロジェクトからの情報提供の要望もあった。これを受けて、北海道大学附属図書館、国立国会図書館の協力を得て、第11回図書館総合展においてフォーラム「大学図書館のアクセシビリティ」(2015年11月12日)の出席を予定している。</p>
-----	--

③ 運営委員会以外には開示しないことを希望する

サブテーマ名	読書障害者アクセシビリティに関する歴史・社会・文化
担当研究者	立岩・松原(洋)・植村・石川・常世田他
内 容	<p>① 障害者サービスとコンテンツのアクセシビリティに関する情報共有と啓発</p> <p>視覚障害者、聴覚障害者の映像コンテンツへのアクセシビリティに関する情報交換(メディアアクセスサポートセンター)および自治体首長(島根市海士町、荒川区)に対し図書館政策に関連して障害者サービスに関する知識提供等を実施した(常世田)。</p> <p>② 障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)に関する国際的調査への参加</p> <p>「障害者の権利に関する条約の包括的な最初の報告の検討プロセスに関する国際調査」の調査研究会会長を務め、障害者権利条約を批准した諸外国における包括的な最初の報告の検討状況に関する調査について、調査方針の検討、収集した資料・情報の分析・考察、報告書の検討などを行った(石川)。</p> <p>③ 内閣府障害者政策委員会「情報アクセシビリティ勉強会報告書」への貢献</p> <p>「平成26年度情報アクセシビリティに関する勉強会について」のメンバーとして、報告書の作成に関わった(山口)。ここでは、アクセシビリティに配慮した電子出版普及の取り組みと教育への活用が提言された。同報告書は2015年7月10日の障害者政策委員会ワーキング・セッションIV(情報アクセシビリティ)の参考資料として検討された。</p> <p>④ 講演会「デジタル時代のアクセシビリティー障害者政策の展開」の開催</p> <p>2015年6月22日に米国におけるコンテンツのウェブ・アクセシビリティと障害者運動に詳しいピーター・ブランク教授(シラキュース大学)の講演会を衣笠キャンパス創思館カンファレンスルームにて主催開催した。視覚障害者を含む来場者と活発な質疑応答が行われた(伊藤京平による開催報告 http://www.r-iris.jp/event/r015.html)。また講演内容が日本福祉放送で放送・ストリーミング配信(2015年7月13日~19日)された。</p> <p>⑤ 教育のインクルージョンに関する歴史的検討</p> <p>1970年代日本の障害児就学運動に関する史料から、障害者のインクルージョンの歴史を検討する。これに関連して立命館大学人間科学研究所萌芽的プロジェクト研究助成「「統合教育」を巡る現代史」(2015年7月~2016年6月)に申請し採択された(立岩)。</p>

④ 運営委員会以外には開示しないことを希望する

サブテーマ名	国内外実態調査
担当研究者	菊池・石川・山口他
内 容	<p>① 支援技術の国際会議への参加</p> <p>2015年3月3日~7日、San Diegoでの The Manchester Grand Hyatt Hotel で開催され</p>

た The 2015 CSUN Conference (テクノロジーと障害者国際会議) に出席し、視覚障害者の支援技術に関する研究者および技術者および視覚障害当事者と情報交換・意見交換を行い、研究開発動向を調査した (石川・山口)。

② 欧米の調査結果の考察

本プロジェクトでの実態調査を踏まえて、フランス、アメリカの障害者向け電子図書サービスとデジタルライブラリーのモデルを検討した (菊池)。

(3) 論文発表

① 雑誌論文 (査読あり)

1. 植村要, 「当事者性が関わるインタビュー調査についての方法論からの考察」, 『保健医療社会学論集』, 日本保健医療社会学会, 26 巻 1 号, pp. 48~57, (2015)

② 雑誌論文 (査読なし)

1. 植村要, 「媒体変更によって生じる視覚障害者と晴眼者との世界の摩擦について」, 『花園大学人権教育研究センター報』, 花園大学人権教育研究センター, 27 巻 46 号, pp. 24~26, (2015)

③ 図書

1. 湯浅俊彦編著, 『電子出版・電子図書館の最前線を創り出す—立命館大学文学部湯浅ゼミの挑戦』, 出版メディアパル, 272p. (2015)

2. 湯浅俊彦, 「デジタル・アーカイブとしての出版コンテンツ」, 岡本真・柳与志夫編『デジタル・アーカイブとは何か—理論と実践』, 勉誠出版, pp. 239~260, (2015)

(4) 学会発表

① 海外での発表

なし

② 国内での発表

1. 菊池尚人, 「情報メディアを活用した顧客志向マーケティング」(シンポジウムパネリスト), 情報メディア学会, 京都府京都市・同志社大学今出川キャンパス, 2015 年 6 月 27 日

2. 湯浅俊彦, 「公立図書館の変革がもたらす地域活性化」(シンポジウム報告), 国際公共経済学会, 第 3 回春季大会, 山口県周南市・周南市市民館, 2015 年 3 月 8 日

3. 松原洋子・植村要, 「図書資料のテキストデータ提供の課題——立命館大学図書館の実践から」(ポスター報告), 一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会, 全国高等教育障害学生支援協議会第 1 回大会, 東京都目黒区・東京大学先端科学技術研究センター, 2015 年 6 月 20 日

(5) 省庁、学会、財団などの表彰

なし

(6) 外部資金獲得 (競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等) *獲得金額も記載下さい。

1. 科学研究費補助金 基盤研究 B (一般) (H25~H27) (日本学術振興会) 「高等教育機関における障害者の読書アクセシビリティの向上: ICT による図書館の活用」, 松原洋子 (代表), 石川准・植村要・菊池尚人・立岩真也・常世田良・松原聡・山口翔・湯浅俊彦 (分担), 計 1612 万円

(7) 特許

① 出願

なし

② 取得

なし

(8) 専任研究員の業績 — (3) から (7) のうち、このプロジェクトで雇用した研究員 (PD 等) の業績—

● 論文発表

① 雑誌論文 (査読あり)

1. 植村要, 「当事者性に関わるインタビュー調査についての方法論からの考察」, 『保健医療社会学論集』, 日本保健医療社会学会, 26 巻 1 号, pp. 48~57, (2015)

② 雑誌論文 (査読なし)

1. 植村要, 「媒体変更によって生じる視覚障害者と晴眼者との世界の摩擦について」, 『花園大学人権教育研究センター報』, 花園大学人権教育研究センター, 27 巻 46 号, pp. 24~26, (2015)

● 図書

なし

● 学会発表

① 海外での発表

なし

② 国内での発表

1. 松原洋子・植村要, 「図書資料のテキストデータ提供の課題——立命館大学図書館の実践から」(ポスター報告), 一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会, 全国高等教育障害学生支援協議会第 1 回大会, 東京都目黒区・東京大学先端科学技術研究センター, 2015 年 6 月 20 日

● 省庁、学会、財団などの表彰

なし

● 外部資金獲得 (競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等) * 獲得金額も記載下さい。

なし

● 特許 (出願、取得)

なし

(9) その他 (報道発表、講演会等)

① 報道発表

「音声で本検索「電子図書館」 障害者に対応、三田で実験」『神戸新聞』2015 年 3 月 6 日 (<http://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/201503/0007794821.shtml>): 三田市立電子図書館アクセシビリティ実証実験に関する記事。湯浅俊彦のコメントを掲載。

② 講演会

1. 植村要, 「障害者差別解消法と公共図書館」(講演), 図書館流通センター, 2015 年度上半期ライブラリーアカデミー第 20 回, 大阪府大阪市・図書館流通センター大阪支社, 2015 年 6 月 18 日
2. 常世田良, 「米国図書館の新しい動き」(講演), 千葉県内図書館友の会連絡会, 千葉県君津市・君津市立図書館, 2015 年 7 月 4 日

3. 湯浅俊彦, 「電子資料の活用と新しい公共図書館像の創出」(講演), 2015年度 TRC ライブラリーアカデミー大阪, 大阪府大阪市・図書館流通センター大阪支社, 2015年4月16日
4. 湯浅俊彦, 「電子図書館の可能性-障害者差別解消法施行に向けて」(講演), 第6回教育ITソリューションEXPO, 東京都江東区・東京ビッグサイト, 2015年5月22日
5. 湯浅俊彦, 「電子書籍の新たな形!? 出版社が期待する電子図書館サービスの役割について」(講演), 東京国際ブックフェア, 東京都江東区・東京ビッグサイト, 2015年7月1日
6. 湯浅俊彦, 「デジタル・ネットワーク社会と学校図書館-電子資料と読書空間の視点から」(講演), 第44回近畿学校図書館研究大会, 大阪府大阪市・御堂会館, 2015年8月7日

③ その他

1. 石川准, 内閣府障害者政策委員会, 委員長
2. 石川准, 全国高等教育障害学生支援協議会, 代表理事
3. 石川准, 電子出版制作・流通協議会「電子書籍のアクセシビリティを推進するためのコンテンツ制作及び電子書籍リーダーの在り方等に関する調査研究」検討委員会, 副委員長
4. 石川准, 国立障害者リハビリテーションセンター運営委員会, 委員
5. 石川准, コメント, 「デジタル時代のアクセシビリティ-障害者政策の展開」, R-GIRO プログラム電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究, 京都府京都市・立命館大学衣笠キャンパス, 2015年6月22日
6. 松原聡, 東洋大学現代社会総合研究所 ICT教育プロジェクト代表(武雄市「ICT を活用した教育(2014年度)」第一次検証報告(2015年6月)でICT教育におけるアクセシビリティの確保の確保について提言)
7. 松原聡, 電子出版・制作流通協議会アクセシビリティ特別委員会委員長
8. 松原聡, 電子出版制作・流通協議会「電子書籍のアクセシビリティを推進するためのコンテンツ制作及び電子書籍リーダーの在り方等に関する調査研究」検討委員会, 副委員長
9. 松原洋子, 司会・企画, 「デジタル時代のアクセシビリティ-障害者政策の展開」, R-GIRO プログラム電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究, 京都府京都市・立命館大学衣笠キャンパス, 2015年6月22日
10. 山口翔, 内閣府 情報アクセシビリティ勉強会, 構成員

以上

電子書籍技術
／市場と
ICT施策

【石川・菊池・松原(聡)・松原(洋)・湯浅・山口・植村他】

高等教育機関に
おける

電子書籍利用
【常世田・湯浅・松原(洋)・植村他】

読書障害者アクセシビリティに関する歴史・社会・文化

【立岩・松原(洋)・植村・石川・常世田他】

国内外
実態調査

【菊池・石川・山口他】

マルチセクター連携拡大強化(出版社団体、IT企業、官庁、自治体、障害者団体、大学、NPO等)

プラットフォーム・デバイス・フォーマット・TTS比較評価
(論文刊行)

デジタル教科書の課題とアクセシビリティ
(論文刊行)

電子出版と図書館の役割
(論文刊行)

アクセシビリティ拡大の課題
(論文刊行)

未校正テキストデータ提供の品質評価実験(論文刊行)

視覚障害者の読書技術の歴史と課題(論文刊行)

障害者支援の費用負担の検討(図書刊行)

出版社アクセシビリティアンケート調査(論文刊行)

ドイツ・米国調査(学会発表)

電子書籍市場の成長とTTS対応状況(調査・報告)

著作権、障害者差別解消法等、政策動向と電子出版の課題
(調査・報告)

デジタル教科書自治体導入状況(調査・報告)

電子図書作成と配信のアクセシビリティ基準作成

三田市電子図書館アクセシビリティ実証実験

国会図書館・公共図書館のアクセシビリティ対応状況
(調査と報告)

書籍複製とデータ共有システム構築の調査とネットワーキング

複製データ共有システムの開発

図書館アクセシビリティに関する研修会等

高等教育機関における読書障害者の読書技法と支援の歴史(調査と報告)

国会図書館・公共図書館・点字図書館における読書障害者の読書支援の歴史(調査と報告)

出版社アクセシビリティアンケート調査

欧米・アジア等の図書館・高等教育機関における読書支援の現状と課題(シンポジウム開催・学会発表等)

シンポジウム・報告書等での成果発信

電子書籍市場の成長に伴う読書アクセシビリティ向上に貢献